

令和元年9月27日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 12時08分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 渡辺 優子
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
×	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
○	教育委員	原 道子
○	教育委員	山内 みどり
○	教育委員	渡辺 優子

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|--------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 生涯学習課長 | 小島 孝紀 |
| 教育総務課指導班長 | 寺口 瑞紀 |
| 教育総務課指導班主幹 | 永井 貴幸 |
| 教育総務課指導班主幹 | 境野 朋美 |
| 教育総務課教育総務班長 | 竹本 直昭 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 込山 久美子 |
- 7 傍聴者 4名
- 8 調整者 教育総務課教育総務班主査 込山 久美子

1 開会宣言

(教育長) 令和元年度9月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 9月政策会議報告を資料に基づいて行う。

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

- (原委員) 教育総務課の予定についてです。10月11日と20日に開催する小中一貫教育校意見交換会はどのように行いますか。
- (教育総務課長) まず、7月から8月にかけて学校で開催した内容と同じものをご説明します。その上で7月8月の意見交換会で出たご意見も紹介する予定です。
- (原委員) 説明内容は1回目とまったく同じでなくても良いのではないのでしょうか。むしろ、1回目の意見交換会で出た意見に対する改善点を加味してはどうでしょうか。
- (教育総務課長) 小中一貫教育についてご理解をいただき、リアクションを受け止めたいと考えていますので、基本的には7月8月の意見交換会と同じように説明したいと思います。「小中一貫教育校設置計画」は、5月23日の教育委員会議で議決されたものですので、説明する計画は同じものになります。
- (原委員) 設置計画案の結論を変えてしまっても良いと思いますが、皆さんの意見を精査した結果として示す資料は変えていっても良いのではないのでしょうか。変わった結論をお話するわけではなくとも、意見を経て変えた部分がある方が、誠意が伝わるように思います。
- (教育部長) まずここで未就学児の保護者さんに向けて開催するのは、前回の意見交換会の開催そのものを知らなかったという方への周知を丁寧に行い、開催しましょうということですが、結論についてはこの先さらに議論をしていくことにはなりますが、いただいたご意見の整理、メリット・デメリットが分からないというご意見には対応して、課題について出来るだけわかりやすくお示しするつもりです。
- (原委員) 様々な選択肢を示せなかったこと、それぞれのメリット・デメリットが示しきれなかったことが問題だったと思います。教育内容として、小中一貫教育をやるということは、教育委員会がやるという方針であれば、やるということだけでよいことだと思います。問題は、進め方と、提示されたものが結論的に見えたことにあると思います。10月の意見交換会までを1周目として、2周目には、疑問点、質問点を整理した説明になるようお願いいたします。

- （山内委員） 7月8月の意見交換会に参加された方が、10月の意見交換会に参加されることもあると思います。ここまでの意見交換会でのご意見を受けて「考えましょう」となったことを、どれだけここでお示しできるかなと思います。リアルに経験する保護者が対象ですから、プロセスを経てこういう未来、ビジョンがありますよ、そこを目指していくんですよというかたちが見えるといいと思います。1周目が終わった後で、しっかりした話し合いをする機会が持てるようにお願いします。
- （教育長） 前回回りきれなかったことをまず補うことが大事ですが、ここまでの成果を盛り込めるところは入れていって、2周目の意見交換会につなげていきましょう。
次回の教育委員会議では2周目の意見交換会での方針を協議したいと考えています。
- （渡辺委員） 今後のスケジュールはどのようになりますか。
- （教育長） 詳細なスケジュールについては、改めてお話しします。

4 付議事項

付議事項無し

5 報告・協議事項

（1）二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

（教育総務班長）二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明。

- （教育長） 前回の教育委員会議で事務局が作成したものをお示しし、委員の皆様からご意見をいただきました。いただいた中で簡単な文言の追加修正については、事務局で修正をしています。改めて、評価の最初の方から見ていきます。23 ページについては、今事務局から説明がありました。議事録の作成にコンピューターを使うなどしていくということで、働き方改革という意味でも取り組んでいくということです。
- （渡辺委員） 議事録の作成ですが、現在は全部職員の方が作業していて、今後音声変換したものをチェックして直すということでしょうか。
- （教育総務班長） 現状の作業は録音をする一方で書記ができるだけ記録を取っており、会議後に録音を聞きながら議事録を作成しています。音声のテキスト化はこれから試験的に導入するものです。
- （教育長） 24 ページです。評価について、渡辺委員から評価Bではないかというご意見をいただきました。
- （原委員） 毎年苦慮するのですが、評価のポイントがピンポイントで見えにくいというところがあります。事業の細部まで見極めるのが難しいところがあります。平成31年度は、重点目標の決定の際に資料をいただいて、この重点に対してこの事業を執行しているのだなというのがわかるようにしていただきました。この評価点について「何が出来たらAで、出来なければBで」というポイントが明確であってほしいと思います。一方で、教

育というのは明確に判断し難いものでもあります。やってきた事業を振り返って、事業を行った職員自身が当初の目標に照らして「Aだな」「Bだな」と思えるのか、ということだと思います。

- （教育長） 47 ページに評価の基準があります。A評価には「目標としている成果があった。成果が上がっている」、B評価には「おおむね適正に取り組んでいるが、改善が望ましい点がある」です。
 - （渡辺委員） 学校訪問に行きますが、各校1回で時間が限られるので、意見や要望をきちんと聞き取れているのかという思いがあります。学校訪問の中では難しいので、日々の学校と教育委員会事務局との関わりの中で密に出来ているのかというあたりを確認したく、評価についてコメントをつけました。
 - （教育長） 確かに学校訪問は各校年1回ですが、それだけでなく研修などの活動についてもここでは評価することになります。
 - （原委員） 学校訪問を何のために行うのか、どういう目的でやるのかということが、前年度のうちに次年度の計画で「こうしましょう」と話し合われて変わることだと思います。1回学校に行ってどこまでわかるのかというと、限界があると思いますから、それなら「止める」とかそういう風になっていくでしょう。30年度のやり方に対する評価はAでよいと思います。学校訪問のあり方の論議は、次年度のことを計画する段階で議論をしたらどうでしょうか。
 - （山内委員） ここで挙げられている項目の評価についてはAで良いと思います。学校訪問のやり方を変えていくことについては、必要だと思います。これまでの経験では、学校側で「教育委員が見にきたらこれを要望しよう」と決めているところもあれば、そうでないところもあるように感じます。来年度以降に工夫をしていくことについては、先ほどからの意見に賛成です。よろしくお願いします。
 - （教育部長） 今いただいたご意見を課題に入れて、評価は「B」でいかがでしょうか。
 - （山内委員） 評価は「A」でいいと思います。
 - （教育部長） 評価を行う上で、事業の部分については出来るだけ数値で目標や達成値を示すようにしていますが、教育委員会の活動については数値で示しがたいところがあります。現時点では、ここで示している項目に対する評価をし、さらに良いものにする為の改善を盛り込むということはできます。
 - （原委員） この部分は、「教育委員の活動に関する評価」ですね。教育委員会議における協議についても皆さん誠実にやってきたと思います。平成30年度は積極的に研修も参加しましたし、評価はAで良いと思います。
 - （教育長） それでは、評価についてはA、ただし、いただいたご意見を盛り込むと言うことで修正したいと思います。
- 次に27ページです。岡野委員、原委員からご意見をいただいています。
- （原委員） 有意でない数字の上下で判断をしていいのかなと思いました。こういったと

ころは微細な数字の上下で判断しないほうが良いと思いますが、目標値をはっきり出してはいかがでしょうか。

- （教育部長） 英語検定の受験率については、50 パーセントという目標値があります。国の目標値に準じたものです。全国学力・学習状況調査については、目標値は定めていません。
- （原委員） 感覚的な判断ではなく、教育委員会としての数値を定めて事業改善に繋がるようにしてはどうでしょうか。
- （教育長） 全国学力・学習状況調査の部分は、評価部分の書きぶりを改めることにしたいと思います。続いて 28 ページです。岡野委員と原委員からご意見がありました。
- （原委員） コミュニティ・スクールになったかどうかは評価対象なのではなく、コミュニティ・スクールを活かして地域との活動で「生きる力の育成」が出来たかどうかは評価対象だと思いますので、書きぶりを改めるべきかと思います。コミュニティ・スクールになったことで、「子どもたちが学ぶ機会が持てた」とかそういうことです。まだまだ地域に開かれきれていないので評価は「B」だと思いますが、評価理由が違うという意見です。
- （教育部長） 評価のコメントを修正します。
- （教育長） 29 ページです。岡野委員から意見をいただいておりますが、いかがでしょうか。
- （教育総務課長） いじめや不登校という問題についての「成果」というのは難しいところではありますが、成果の部分はもう少し具体的な記述を入れて修正したいと思います。
- （原委員） 「全ての子どもたちが安心して学べる環境である」ことが最上位にあって、「不登校が減った」とか「いじめが減った」というのが評価なのだと思います。相談件数の増というのは一概に成果とは言えませんね。
- （教育総務課長） 相談する体制が整った成果ともいえますし、相談すべき悩みがそれだけあるという側面を示しているとも言えます。文部科学省がガイドラインを改定し、より小さなことでもいじめとして取り上げる方向にあるところで、尺度のつけ難いところです。教員の意識が変わったというあたりは盛り込めると思います。
- （原委員） 数値目標で示すのは難しいですが、目指すところははっきりしているので、子どもたちの満足度のアンケートで評価できませんか。子どもたちが安心して学校に通えているかということが、評価の規準になるだろうと思います。来年度何を評価するかというときに基準を検討していただくようお願いします。
- （教育長） 次に 30 ページです。こちらは字句の修正を行いました。続いて 31 ページです。字句の修正を行いました。渡辺委員からいただいたご意見ですが、今年度にかかる部分です。評価期間は平成 30 年度ですので修正無しでよろしいですね。
- （教育長） 32 ページです。岡野委員、山内委員、渡辺委員からご意見をいただきました。岡野委員は「BをAに出来た成果をもう少し盛り込んだらどうか」ということでした。
- （渡辺委員） 重点政策の「(3) 小中一貫教育導入についての検討」に対して研究会の実施があります。教育内容についてはしっかり進められたと思います。ただ、研究会でま

とめられたものが、成果としてどうなのかなど。今年度に続いていることなので、切り分けが難しいところで、どこまでを評価するのかなと思いました。

○（山内委員） このときにはまだ、コミュニティ・スクールと小中一貫教育は、コミュニティ・スクールが先行している状況でした。小中一貫教育については、昨年平成30年度に研究会をおこなった結果が、今年度に入ってから議論に繋がっています。種まきと申すか、小中一貫教育の検討の出発点という意味で、平成30年度の取り組み・成果をしっかりと打ち出して記録しておくべきかと思います。

○（教育長） ご意見の中に「実際とかけ離れているのでは」というご意見がありました。これは、設置計画「案」の部分についてのご意見ということでしょうか。平成30年度にまとめた、研究会の報告書については、実践として小学校の外国語活動の取り組みなどがありました。

○（渡辺委員） そうですね。41通りから2校の案になりましたが、建物の調査などをした上での案でないところが「実際のところどうだろう」という引っかかりがありました。

○（教育長） それでは、評価はこのままでよいでしょうか。

（教育委員 同意）

○（教育長） 続いて36ページです。B評価に対して、岡野委員からAではないかというご意見をいただきました。

○（原委員） 評価所見の中に「限られた予算の中で」という表現がありますが、そこに違和感を覚えました。予算が限られているのはどこも同じ事です。どういう意味の表現なのかなど。何をしたいか結果どうだったということを書けばよいだろうと思います。

○（教育長） 渡辺委員からは、逆に予算増へのご意見をいただいています。

○（渡辺委員） 評価の表現の中で、「限られた予算」という表現を削ることは同意しません。図書館の開館日が増えましたが、閉館時間が早くなったところもあります。要望になりますが、予算を増やして開館時間も増やしてほしいと思います。

○（山内委員） この項目の評価については、岡野委員の意見に同意します。ラディアンについての評価は、図書館のことが多いように思いますが、生涯学習センター全体の修繕などを盛り込んでよいかと思いました。

○（生涯学習課長） この項目についてラディアン・図書館のそれぞれの担当班から分かれて成果を出してしまっているため、まとめて整理する必要があります。

今、山内委員にいただいたラディアン施設面、空調や備品については、41ページに含めさせていただきます。

○（山内委員） ここでBになった理由が明確でないように感じます。

○（教育部長） この項目での評価ポイントは、ラディアンで無料Wi-Fiを始めたことと図書館開館日の増です。

○（原委員） 課題はなんでしょう。

○（生涯学習課長） 運営体制として、図書館職員のシフトが複雑になっています。目的は

達成しているが、今後について課題があるということです。

- （教育長） 評価はAとしてよろしいでしょうか。
- （渡辺委員） Aで良いと思います。さらに良くしていくための課題は、今伺ったシフトについての他にはありますか。
- （生涯学習課長） 開館時間の変更を試行して1年になります。利用者の方には大分浸透しているように感じます。要望というのは果てしなくなってしまうので、利用者の声を受けてどこまでやるということを精査していかなければなりません。精査の方法と、周知が課題と感じています。
- （教育長） 評価はAにするということで変更します。次に、37 ページ、38 ページは、若干の字句の修正を行なっています。続いて40 ページです。修繕計画について、岡野委員からご意見をいただいています。
- （生涯学習課長） 経年劣化等で突発的な修繕が生じることはあります。修繕計画の策定は必要ですので、成果・課題の部分を改めます。
- （山内委員） 一生懸命やっていたいただいているのはわかるのですが、迅速かというところでも難しいものがありますね。
- （生涯学習課長） 補正予算での対応など、出来る限り迅速というところですが、表現を検討します。
- （教育長） 次に冊子41 ページです
- （教育総務班長） この項目は、教育総務課・生涯学習課両課まとめたページです。岡野委員から「成果としてはどうですか」というご意見、また、「2年連続でBですよ」というコメントをいただきました。情報発信の強化については、事務局なりに強化してきたつもりです。従来から学校自身の情報発信へのご意見をいただいています。国の取り組みとして、学校からの情報発信を支援する動きが今年度中に動き出しそうだという情報があるところです。今年度の動きですので、ここでの評価には含めていません。また、町のホームページについては、町全体での見直しが現在行われています。何かしらの手ごたえが感じられるような方向は引き続き探していきたいというところです。
- （教育長） 一通り確認が終わりました。総じて何かございますか。
- （原委員） 評価が次年度につながりにくいということがあると思います。今、30年度の評価をしていますが、既に次年度が半分過ぎてしまっています。この評価時期について、早められないものでしょうか。
- （教育部長） 町の行政評価も、年度が終わって評価していて、同じ動きをしています。中間評価して、次年度予算に活かすやり方もありますが、事務的に煩雑になるところもあります。
- （教育長） 出来るところから早期に対応するというところでやっていきたいと思います。

（3）その他

一 次回教育委員会予定 一

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

- (原委員) その他ということで一点よろしいでしょうか。コミュニティ・スクールについてです。二宮中学校で「寺子屋」という地域の方が勉強を見てあげる、学校運営協議会の取り組みが始まったようですね。素晴らしいと思います。コミュニティ・スクールで出来ることが具現化した良い例だということで、ぜひ、他の学校にも伝えていただきたいと思います。その一方で、学校運営協議会の部会を作るのに苦慮している学校があるようです。既にあるボランティアなどの活動が、学校運営協議会として集約、一元化されるということであれば良いのですが、新しい部会を作ろうと苦労されているようです。先行している一色小学校の前例に少し引きずられてしまっている様に感じます。社会教育委員の方も研修などで学んでいらっしゃるようですが、そういう場でコーディネーターの話が出てくるわけです。二宮町にはコーディネーターがいませんから、そこは教育委員会が入ってうまく手引きをしてあげないといけないと思います。
- (教育総務課長) 先日、生涯学習課長と一緒に、二宮小学校と山西小学校の学校運営協議会に出席してきました。二宮小学校では、今ある部会に入っていていただく人材を探したいということでした。一方、山西小学校では、今ある取り組みを整理して、重なっている部分は合理化してやっていきたいというお話がでていました。「今あるものを整理、合理化していくこともコミュニティ・スクールのあり方ではありませんか」といったご意見も出ていて、地域の方にコミュニティ・スクールのイメージは出来つつあると感じました。確かに今後、誰がコーディネートしていくかという課題はあります。
- (生涯学習課長) 放課後子ども教室は、社会教育委員の中で選ばれた地域学校協働活動推進員さんをお願いしています。地域学校協働活動推進員には、いずれは学校と地域を繋ぐ役割を担っていただきたいと考えていますが、まずは放課後子ども教室の運営を足がかりということでお願いしています。
- (原委員) 具体的に負担を感じるのは、誰がやっていくかというとりまとめと役割分担のようです。不安感や戸惑いがあると聞きました。
- (生涯学習課長) 放課後子ども教室は、生涯学習課の事業としてやってきたものですが、本来、コミュニティ・スクールの取り組みの中で「放課後子ども教室をやろうよ」という議論があってからやることだったのかなと、今感じているところです。先行する町の事業を引き受けていただいていますから、町からの強制感があるように感じられるかもしれませんが。経過をご説明してご理解もいただきながら、「取り組みは良いものなので、既に仕組みがあるものをそのままやりましょう」と言っています。学校運営協議会で、これからどういう風にやっていこうという議論になっています。そうした中で、1校のコミュニティ・スクールではなく全町的に人材発掘が出来ないかなという動きが出てきました。会議に出てみて、コミュニティ・スクールのあり方や立場については、それぞ

れのご意見があると感じました。色々な運営のやり方がありますから、そこで迷いが生じて、分かりづらくなっている面もあるかもしれません。

- （教育総務課長） 人材発掘のアンケートについてですが、二宮小学校では既に案ができていました。せっかくアンケートを作るので、全町的に一斉にやったらどうかというご意見も出ています。人材を先に集めるのか、それとも先に始めてみるのかは、学校ごとの独自性を活かしていかないといけないとも考えています。各学校の学校運営協議会の会長さんに集まっていただいて情報共有をする場を設けるよう調整しています。
- （原委員） 理念的なところは共通のものを持っている方が、独自性を出すときにも役立つでしょう。そこが共有されていないと感じますので、もう少し全校で共有できるようにしていただきたいと思います。
- （教育部長） 実施する事業のことに話が行きがちな面があるかもしれないのですが、コミュニティ・スクールの核になるものとして「学校の運営方針の承認」や「評価」があります。先ほどのご意見にありましたが、部会については、必要があれば作るということが良いと考えています。三鷹市の取り組みにありましたが、ネットワーク会議を開催し、そこで理念、考えを共有していければよいと思います。
- （原委員） 時間がかかることですが、あせらず丁寧に進めることが必要でしょう。
- （山内委員） 小中一貫教育を検討する中で「目指す子ども像」について議論がありました。コミュニティ・スクールも、根底にそれがあると思います。各学校のこれまでのスタイルがありますが、地域が、自分たちの地域の子どもたちをどんな風に育てたいという話し合いが深まれば、「どのようにやる」という部分は自ずと決まってくるように思います。
先日、ラディアンでゆめクラブの芸能大会があり、少し関わりました。その場を利用して、地区長さん、自治会長さんなどが「学校でシニアの力を活用する人材バンクを作るので参加してください」という呼びかけをされていました。その時には、それがどういう風に活用されるのかまでは、話されていませんでしたので、「何のために」という部分の浸透が必要な面はあるとは思いました。でも、動き出しているんだなということを強く感じることができました。徐々にコミュニティ・スクールの理念が伝わっていくと良いなと思います。
- （教育長） それぞれの学校ごとの事情でやっていっていいのだということは押さえつつ、開かれた学校という中での地域の取り組みが、いずれ「二宮の町が子どもを育てる」という風になっていくと良いですね。

— ご挨拶 —

原道子委員より委員退任のご挨拶をいただいた。

— 傍聴者退席 —

5 報告・協議事項

(2) 教育支援室教育相談活動について（報告）

－ 非公開 －

12 時 08 分 閉会